

(社) 日本原子力学会
第 54 回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 23 年 1 月 13 日(木) 13 : 30~17 : 30
場 所 日本原子力学会事務局会議室
出席者 北村委員長、大場副委員長、小澤委員、杉本委員、中野委員、萩原委員、
平野委員、弘津委員、宮越委員、三好委員、山本理事 (11 名、委員名簿順)

配布資料

- 資料 54-1 第 53 回倫理委員会議事要旨 (案)
- 資料 54-2 平成 23 年の活動予定
- 資料 54-3① 2011 年春の年会 企画セッションについて
- 資料 54-3② 2011 年春の年会 企画セッション提案書
- 資料 54-3③ 原子力学会誌 3 月号『2011 年春の年会 企画セッション見どころ』原稿 (案)
- 資料 54-3④ 講演依頼状 (報道、医療/西村院長・松本先生)
- 資料 54-3⑤ 講演予稿様式 (報道、医療)
- 資料 54-3⑥ 福井大学文京キャンパスマップ
- 資料 54-4① 日本原子力学会倫理委員会による工学倫理教育報告書 (案)
- 資料 54-4② 教育 GP 学生支援プログラム授業アンケート結果 (案)
- 資料 54-5 10 周年企画「アンケート企画」第 3 回中間報告
- 資料 54-6① 「日本原子力学会誌」記事提案書
- 資料 54-6② 10 周年記念イベントについて
- 資料 54-7 中国電力 (株) 島根発電所保守管理ならびに定期事業者検査に関わる問題への見解 案 ver. 1
- 資料 54-8 ICONE19(5/16-19, 2011, 幕張)倫理セッションの準備状況
- 資料 54-9① 第 33 回技術倫理協議会議事録案
- 資料 54-9② 日本工学会技術倫理協議会 第 6 回公開シンポジウム実施報告
- 資料 54-10① H22 年度収支予算及び実績表
- 資料 54-10② 「予算外」承認願 (倫理ケースブック 3)
- 資料 54-11① 2010 年秋の大会 倫理委員会セッション アンケート結果
- 資料 54-11② 参考資料 2010 年秋の大会倫理委員会セッション 奈良林先生ご講演録

議事

1. 資料 54-1 により前回議事要旨 (案) を確認し、承認した。
2. 資料 54-2 により杉本委員から平成 23 年の活動予定の説明があった。第 5 期倫理委員の任期は 2012 年 6 月末までとすることとした。第 16 回研究会の主担当を萩原委員と訂

正した。倫理規程改定の担当は作田幹事とし、作田幹事と相談しながら全員で進めることとした。「各電力会社の原子力発電に係る不正・不適切事例発表に際しての提言」(2007.5)及び「原子力発電所事業者の不正・不適切事例およびその始発防止策に関する分析評価」(原子力学会和文論文誌, 2010.9)のフォローアップが必要であることを確認した。

3. 資料 54-3①～⑥により中野委員から 2011 年春の年会倫理委員会セッションについての説明があった。北島論説委員長(福井新聞社)への講演依頼題目は、科学技術の報道に対する説明責任に関するご講演であることが分かりやすくなる「**科学技術の報道～ジャーナリストが工夫・苦勞していること～**」を北島論説委員長にご提案し、了解を得ることとした。タイトルの修正は 1/21(金)までに確定し、事務局年会大会担当へ連絡する。講演後の質疑応答は一方の講演に質問が偏ることがないように「両講演者の相互質問」「報道に関する講演への質問」「医療に関する講演への質問」のバランスをとったタイムテーブルに中野委員が見直すこととした。講演者への謝金は、今回は源泉税別の金額であることを確認した。学会誌 3 月号掲載の資料 54-3③「見どころ」は、最終 2 行を「この紹介を踏まえ、原子力産業における技術倫理・説明責任、学会の役割・責務を・・・」と修正することとした。

4. 資料 54-4①②により小澤委員から第 1 4 回倫理研究会報告書(案)と同アンケート研究結果(案)の説明があった。佐藤部長(東芝)の講演録(案)については、中野委員から暫定版であることを断った上で必要の有無をお聞きすることとした。また、資料 54-4①は録音不良によりブランクが多数あるため、小澤委員が再度音声を確認したうえで修正することとした。

5. 資料 54-5 により平野委員から 10 周年企画「アンケート企画」について説明があった。調査目的としては、学会員の倫理意識の把握、学会の倫理活動はどうあるべきかに参考となる意見の収集、3 年毎の調査の最初になる調査などの意見が出された。方法論については、AESJ ニュース購読者へのメール送付と学会誌に HP を提示してアクセスする手法を併用することとした。目的、手法共に今後とも継続して検討して行くこととした。

6. 資料 54-6①②により大場副委員長から「日本原子力学会誌」記事提案書及び 10 周年記念イベントについて説明があった。単独記事(執筆者:大場副委員長)については、提案書の内容で承認された。連載記事については、若手の執筆候補者を委員より推薦してもらい、適任者がいれば最優先とすることとした(1 月中に大場副委員長へ連絡する)。記念イベントについてはコメントを 1 月末までに大場副委員長に送付することとした。

7. 資料 54-7 により大場副委員長から中国電力への見解案 ver.1 について説明があった。風土や倫理の問題とすると焦点がぼける、行動の手引きの引用と理由を逆にする、理由は説明とする、などの意見があった。議論を踏まえて、大場副委員長が ver.2 を作成し、メールによる審議を継続することとした。

8. 資料 54-8 により杉本委員から ICONE19(5/16-19,2011,幕張)倫理セッションの準備状況の説明があった。パネリストは現状の外国及び日本から各 2 名で最小限満たされている

が、可能なら日本の産業界からのパネリスト1名を検討することとした。

9. 資料 54-9 により大場副委員長から第 33 回技術倫理協議会及び日本工学会技術倫理協議会第 6 回公開シンポジウムについて説明があった。

10. 資料 54-10①②により事務局から H22 年度収支実績および見込み・H23 年度予算について説明があった。また予算外承認願（倫理ケースブック 3）については①に表記されていないが、すでに承認されているとの説明があった。

11. 資料 54-10①②により弘津委員から 2010 年秋の大会倫理委員会セッションのアンケート結果及び同奈良林先生講演録について説明があった。

12. 次回倫理委員会は、平成 23 年 3 月 29 日(火)9:30～福井大学で開催することとした。

以上